

第5回長期総合計画審議会意見反映状況

1 (1) 審議会のこれまでの振り返り

○意見なし

1 (2) 今後の財政収支の見通し

○意見なし

2 (1) 基本構想策定における基本的視点について

○平澤委員

まちづくりコンセプトの作り方は、性格でまとめる案と親和性でまとめる案の2つの案があるが、性格でまとめる方がしっくりくる。親和性でまとめる案は、内容がオーバーラップしていて、きちんと分けられていないように感じる。

審議会の意見を参考とし、まちづくりコンセプトは案1の「性格でまとめる」を採用しました。

○長井委員

3ページ。「集まった人や企業が相互に影響し合い」は、もう少し推していくような、外にアピールしていく表現がよい。「集める」くらいの表現の方がよりアグレッシブに動いていくように見える。

修正しました。

「～その魅力をしっかりとアピールしていく、人を集めることが重要と言えます。さらに、~~集まった~~めた人や企業が相互に影響し合い、～」

○篠原委員

1ページ。「サービス水準は維持していくこと」が前提になっているが、維持が精一杯となる数的なエビデンスがない。「厳しい財政状況」だけではピンとこないので、理由をしっかりと示す必要がある。

→(朝日会長) 次の段落の「～健全な財政運営に努めていきます」について、表現の検討を。

文章の順序を入れ替えるなど、厳しい社会状況が背景にあることを分かりやすくしました。

○甲野委員

6ページ。理念の「持続可能性」について、持続可能性には地球環境のように大きな視点もある。政府の方針として地球温暖化対策が掲げられているので、市としても動き出す必要があるが、記載内容が立川市限定になっている。もう少し大きな視点での記載を提案したい。

環境については、コンセプト1（案1性格）の説明文で一步踏み込んだ表現としました。
「環境に配慮したまちづくり」→「環境と人に優しいまちづくり」
また、「環境」の政策を立て、「脱炭素」や「資源循環」等の大きな視点の記載も盛り込みました。

○宮本委員

コンパクトによくまとまっていて、必要なことは網羅されている。全体的にはよい。
3ページ。「JR立川駅北口に109のパブリックアート」とあり、ファーレ地区のアートを示していることは分かるが、それを「立川駅北口」と言ってよいのか。もう少し的確な表現がよいと思う。

修正しました。
「～JR立川駅北口ファーレ立川地区には109のパブリックアートにより～」

3ページ。「大きな可能性を秘めている」について。「秘めている」では可哀想。すでに芽生え始めているので、もっと積極的な表現を使ってもよいのではないか。

修正しました。
「プロスポーツチームの拠点が増え、スポーツのまちとしても軸としたまちづくりはさらなる大きな可能性を秘めていますがあります。」

○福永委員

6ページ。理念の「持続可能性」について、持続可能性の項目だけ、ネガティブな表現が多くなっている。理念とするならば、もう少し前向きな表現に変えられるとよいと思う。

理念の「持続可能性」を「発展・継承」に変更しました。
本文に「発展させながら」、「発展的に継承して」という前向きな表現を追加しました。
また、まちづくりコンセプト3についても、「持続可能なまちづくり」を「未来へつむぐまちづくり」と前向きな表現としました。

○川口委員

1ページ。第4次長期総合計画では、人口減少を前提とした発想だったが、今回は人口維持が基本となっていると感じた。そのために、基本的なサービスを維持していくという想いが込められていると理解した。その実現のために、立川市の特徴をどう生かすかという文脈になっている。人を集め、相互に影響し合い、イノベーションを起こせるか。都内にはない労働環境を創れるかといったところであると思うので、(1)(2)は非常に納得感がある。

○片岡委員

2ページ。健康寿命を伸ばすためには、医療DXを生かして、病気を重症化させないことが重要。また、ここに入れるのは難しいかもしれないが、感染症の対策についての言葉がほしい。

→（朝日会長）感染症は危機管理の側面もある。どこで言及するべきか検討が必要。

まちづくりコンセプト1の説明文に「新たな感染症や大規模災害等への十分な対応力を備えるとともに」という文言を追加しました。

○萬田委員

2ページ。「稼げる力」とはどういう意味なのか。

→（事務局）前回の審議会で森林委員が使っていた表現。経済サイクルを回していくこと必要であるという意見を反映した。

→（朝日会長）「稼げるまちづくり」は地方創生でも多用されている表現。

→（萬田委員）税金を増やす、事業の発展、景気をよくするという印象だが、「稼げる」はあまりよい言葉ではないと感じる。

→（朝日会長）意図は、森林委員も萬田委員も事務局も一緒だと思うが、10年間使用することを考えると地方創生で使われている言葉ではなく、ベーシックな言葉の方がよいかもしない。

→（平澤委員）ひとつの案として「利益を生む」はきれいかなと思う。

「稼げる」を「経済力」、「経済発展性」に修正しました。

2 (2) 未来ビジョン（将来像）について

○平澤委員

熟慮したわけではないが、説明文にもある「お互い支え合い、誰もが安心して暮らせる」がよいと思う。

「お互い支え合う」、「安心して暮らせる」を「優しさ」で表現し、多様性・包摂性の理念を「優しさにあふれる」としました。

また、5ページの説明書きの「人種、国籍」について懸念している。安易に入れず、熟慮した表現にしてほしい。

修正しました。

「~~性別、年齢、障害の有無、人種、国籍、ライフスタイル、職業、宗教、趣味、価値観等~~
のすべての人が様々な違いをお互いに認め合い、～」

○福永委員

多様性・包摂性については、「思いやり」や「思いやる」といった言葉が市民ワークショップでも提案されている。連携・協働については、「つながる」。主体性・独自性でも参考になる言葉がある。持続可能性については、「未来を考える」。市民ワークショップでは、非常に分かりやすい言葉が使われているので、参考にするとよいと思う。ワンワードになるが、その方がよい気がする。

市民ワークショップで提案された言葉から、理念を表現する言葉を検討しました。

「思いやり」「思いやる」「やさしい」 → 「優しさにあふれる」(多様性・包摂性)

「共に」「つながり」 → 「共に創り出す」(連携・協働)

「成長していく」「発展する」 → 「次代に引き継ぐ」(発展・継承)

○田所委員

分かりやすくすることが本当に必要なのか。10年先を考えると、今ある単語が市民性を持ってくるのではないか。多様性・包摂性は、それだけで分かる時代がくると思う。分かりやすくすることではやけてしまう。

市民に的確に伝わり、意味がぼやけてしまわないように配慮したうえで、各理念のフレーズを検討しました。

○長井委員

多様性の説明文の「性別～価値観等の違い」は、記載項目に際限がないので、人でカテゴライズして、「すべての人」という包括的な表現の方がよいと思う。

修正しました。

「~~性別、年齢、障害の有無、人種、国籍、ライフスタイル、職業、宗教、趣味、価値観等~~

のすべての人が様々な違いをお互いに認め合い、～」

また、7ページのコンセプト説明文についても、「世代や性別、国籍、障害の有無などに関係なく」を削除し、直後の「誰もが」ですべての人を表現します。

○宮本委員

かっこ書きは端的に表現されていて十分に分かりやすい。分かりやすくしようとするところになってしまう。ただ、「～性、～性」と連発されるのも苦しいので、やわらかい表現を考えると、①「誰もが尊重される」、②「共に支え合う」、③「可能性に挑戦できる」、④「安心できる未来へ」。かっこ書きも残した方がよいと思う。

意味がぼやけてしまわないように配慮したうえで、やわらかいフレーズを検討しました。
また、提案いただいたフレーズを参考とさせていただきました。

「誰もが尊重される」→「優しさにあふれる」

「共に支え合う」→「共に創り出す」

「可能性に挑戦できる」→「時代に挑む」

「安心できる未来へ」→「次代に引き継ぐ」

○福永委員

未来ビジョンやまちづくりコンセプトは曖昧な表現だったとしても、目を引く表現にして、そこから下の政策へ読み進めていくと具体的に書いてあるというつくりにするならよいと思う。また、下に行くにつれて言葉の定義をしっかりととする必要がある。

まちづくりコンセプトは、目を引く表現として、前半で一旦言い切るフレーズに改めました。また、政策方針に具体的な取組方針を記載しました。なお、計画書には分かりやすい用語解説を掲載するようにします。

○松浦委員

持続可能性は一般的に理解できる表現なので、そのままでもよいと思う。かっこの中だけでも十分だが、さらに分かりやすい表現があれば、それでもよいと思う。

「持続可能性」から一步踏み出すイメージで、「発展・継承」としました。

○大塚委員

かっこの中だけでも十分に伝わるが、インパクトがある表現があるとさらによい。主体性・独自性については、時代をリードするまちということで、先ほども言っていたが、挑戦したり、創造したりといったところで、これから約10年間に立ち向かって、挑んでいく

というところをメッセージにしていきたいと思う。持続可能性については、次の世代に引き継ぐということが表現できるとよいと考えている。

行政的な言葉遣いではなく、インパクトを意識してフレーズを検討しました。
また、提案されたフレーズを参考としました。
「挑戦」→「時代に挑む」
「創造」→「共に創り出す」
「次の世代に引き継ぐ」→「次代に引き継ぐ」

○福永委員

市民ワークショップでよい意見が提案されている。ありきたりであっても、「これなんだろう?」というような言葉、例えば主体性・独自性であれば、A班の「あの立川」。「これどういう意味?」と、読み進めると説明文に内容が書いてあるイメージがよいのか、もっと現実的な単語がよいのか。市民ワークショップの意見を参考とするだけではなく、取り上げていくのもひとつだと思う。

インパクトと市民への伝わりやすの両立を意識してフレーズを検討しました。

○平澤委員

②連携・協働は「互いに連携した安心できる暮らし」、③主体性・独自性は「独自性を持って時代をリードする」、④持続可能性は「持続可能な社会を構築する」といった言葉がよいと思う。次の世代に責任を持つといった文言については、持続可能性は次の世代だけの話ではないので、次の世代だけに留めない方がよいと思う。

提案されたフレーズを参考としました。
「互いに」→「共に創り出す」
「時代をリードする」→「時代に挑む」
また、持続可能性については、現在の世代がまちを発展させるというニュアンスを入れることで、次の世代だけに留まらないように配慮しました。

○朝日会長

かつて書きの前の言葉は、理解してもらうだけではなく、目を引くような役割も担う。

(目を引く) インパクトと市民への伝わりやすの両立を意識してフレーズを検討しました。

多様性、連携、持続可能性はみなさんがおっしゃったとおり、「誰もが」「支え合う」「つながる」「未来・将来」といったところが入ればよいと思う。主体性・独自性は難しいが、次世代につながるような「チャレンジできる」、「新しい価値」など。

「誰もが」は多様性の・包摂性の説明文の「すべての人」。「支え合う」「つながる」は連携・協働の「共に」。「未来・将来」は発展・継承の「次代」で表現しました。
また、主体性・独自性は「チャレンジできる」を参考に「時代に挑む」としました。

2 (2) まちづくりコンセプト（都市像）について

○西内委員

案2の「親和性でまとめる」に賛成する。「子ども」というキーワードが最初に出ている。これから社会を支えていく「子ども」がキーワードになる。

コンセプトは案1を採用させていただきましたが、「子ども」が重要なキーワードであることは認識しています。コンセプト1の説明文に、「学校教育」を入れるとともに、「未来を担う子どもたち」を「未来に羽ばたく子どもたち」として、「子ども」に対する取組を進めることをより強調しました。

○朝日会長

案2はこれまで多くの自治体で採用されてきた標準的なタイプ。一方で、案1は戦略として、少し上位に位置付けている印象。コンセプトの下にある組織が柔軟に取り組んでいくというメッセージであると解釈した。そのような解釈でよければ、案1は分かりやすいが、「子ども」や「自然」などの具体的な政策の取組については、別途説明していく必要がある。

政策として「子ども・子育て」、「環境」等を立て、具体的な取組は政策の取組方針で示しました。

○福永委員

下に行くほどより具体的になる、今までとは違ったやり方だと言うならば、案1もありえるであろう。

政策方針で各政策分野の10年間の取組方針を示しました。

○松浦委員

基本的視点にあるとおり、人口流入を促進し地域の担い手を増やし、まちの活性化から付

加価値を見出していく、具体的には子育て施策に取り組んでいくといったところがポイントになるであろう。案2は子育てが全面に出ていて分かりやすいが、ビジョンを具体的に落とし込んでいく中でコンセプトに反映させれば案1でも見えやすくなる。さらに、具体的な政策ということであれば、筋が通る。

コンセプト1の説明文に、「学校教育」を入れるとともに、「未来を担う子どもたち」を「未来に羽ばたく子どもたち」として、「子ども」に対する取組を進めることをより強調しました。また、政策として「子ども・子育て」等を立て、具体的な取組は政策の取組方針で示しました。

○長井委員

そもそも、性格、親和性のどちらかで分けなければいけないのか。組織横断的に取り組んだ方がよいので、基本的には案1の性格でまとめる方が色々な意見が出てくる。同じようなことを別の課でやっていることもあり、もったいないので、オールラウンドでできた方がよい。最重要課題である子育て支援などは、しっかりと受け止め、落とし込んでいくのも一つの方法。どちらかを選ばなければいけないならば、案1の性格だが、ミックスしてもよいかも知れない。

審議会の意見を参考とし、まちづくりコンセプトは案1の「性格でまとめる」を採用しました。また、政策として「子ども・子育て」等を立て、具体的な取組は政策の取組方針で示しました。

○朝日会長

性格、親和性でまとめる必要性をどこかで説明するとよい。

説明のため、まちづくりコンセプト冒頭に、以下の文言を追加しました。

「なお、戦略として明確に打ち出すため、政策ごとではなく、「市民サービス」・「まちの価値」・「自治体運営」といった大局的な視点で方向性を定めます。」

○田所委員

次回、政策方針が事務局から示され、コンセプトとのつながりが明確になると、論議が分かりやすくなると思う。

今回（第6回審議会）、政策方針をお示しました。

○甲野委員

親和性の1と2が性格の1、親和性の3と4が性格の2に包含されていると思う。先ほど

議論のあった「子ども」については、性格のコンセプト1のフレーズには出てこないが、説明文には「未来を担う子どもたち」としっかりと入っているので案1の性格でも問題ないと思う。ただし、性格のコンセプト1の「環境に配慮したまちづくり」は地球環境のことだと解釈したが分かりづらい。親和性のコンセプト2だと「カーボンニュートラルを見据えた環境に配慮したまちづくり」とより具体的に書いてある。カーボンニュートラルは国の重要施策であり、10年後の2035年時点を考えると、「カーボンニュートラルを見据える」ではなく、「カーボンニュートラルを目標とした」とするような、必ず達成をするという意気込みが必要だが、少し後ろ向きなので、もう少ししっかりと野心的に書いた方がよいと考える。親和性だと具体的だったものが、性格になると後退するところが散見されるので、そのあたりをもう少し丁寧に書き込むとよい。

→(平澤委員) カーボンニュートラルは否定するものではないが、世界的に見直しの動きもあるので、カーボンニュートラルを強く打ち出すよりも、「環境」程度に収めた方がよいと思う。

→(朝日会長) 政策との兼ね合いで、コンセプトにキーワードをどこまで載せるのか考える必要がある。案1の性格は、案2の親和性で言われている課題をつなぎ合わせて対応できるというところもあって、よいのではないかという意見が多かったと思う。ただ、案1は行政としてはチャレンジング。上位の戦略のもとに下位の政策をどのように実現していくかというところは、今までよりも、重複なく柔軟にやっていくというメッセージだと思うので、政策とのつながりできちんと表現できるように検討をお願いしたい。

具体的な取組内容やキーワードは主に、政策方針で示しました。

○川口委員

案1の性格は大きくなくくりだが、その下の政策との結びつきにおいては、含めるものが多くてよいと思う。コンセプト1が安心ややすらぎといったことを語っているのに対して、今後10年、立川が人口を減らさずにやっていくというのであれば、立川が持っている差別性、ダイナミズム、動的な力が必要であり、それを言おうとしているのがコンセプト2。安心ややすらぎは当然担保するが、それを実現するためのダイナミズムを語っているのがコンセプト2だと思う。

審議会の意見を参考としまちづくりコンセプトは案1の「性格でまとめる」を採用しました。

○片岡委員

「健康」という言葉を文言に入れてほしい。「～誰もが安心とやすらぎや健康を実感できる」など。

コンセプト1の説明文に「感染症（健康）」に関する文言を追加しました。また、政策として「保健・医療」を立て、健康に関する10年間の取組方針を示しました。

○辻元委員

案1の性格でまとめるのがよいと思うが、案2も「子ども」というフレーズが入っていてよいと思った。ただ、案1のコンセプト1は前半の「都市と自然が調和し」と後半の「誰もが～」とで性格が違うものが一緒になっているのが少し気になる。コンセプト2と3は前半と後半でひとつのまとまりになっている。

案1の性格でまとめることのよさは、横断的に、縦割り行政ではなく、課のつながりを持って同じ目標に向かって政策を考えていくということであり、その方針はよい。

コンセプト1の説明文で「子ども」に関するキーワードを強調しました。

案1のコンセプト1について、前半と後半で整合性のある表現に改めました。

○篠原委員

「市民に寄り添い」について、「寄り添い」という表現は、弱者に寄り添うというニュアンスで使われる所以、この言い方だと、市民が主体でなくなってしまう。

→（朝日会長）意図としては、「市民と共に」ということだと思うが、表現の検討を。

コンセプト3のフレーズに「市民とともに」を追加しました。また、コンセプト3の説明文で、「市民参加を積極的に進める」、「市民と共にまちづくりを進め」という、市民が主体であることを表現する文言を追加しました。

○大塚委員

まちづくりコンセプトのセンテンスについてはあまり議論がなかったが、本日の意見を踏まえて、事務局でより分かりやすく、伝わりやすく修正をしたい。市民サービスについては、環境、健康、防災、感染症などのキーワードを検討したい。「市民に寄り添い」も審議会の意見を参考に検討したい。市民参加を推進することで、市民に寄り添い、市民と共にという意図であった。

伝わりやすい、インパクトのある表現とするため、前半で一旦言い切るフレーズに改めました。また、コンセプト1の説明文に「防災」や「感染症（健康）」に関する文言を追加しました。コンセプト3の説明文は、市民参加を強調する文言に修正しました。